令和３年度

第3次能美市地域福祉活動計画[最終4年目]

評価委員会報告

地域福祉推進のマスコット

のみんちゃん

社会福祉法人能美市社会福祉協議会

令和３年度　第３次能美市地域福祉活動計画評価委員会報告

開催日時：令和４年４月２０日（水）午後７時～８時２０分
開催場所：能美市ふれあいプラザ　２階　第１会議室
出席者：

高塚　亮三	評価委員会	委員長
西川　方敏	〃	副委員長
吉田　　良	評価委員会	委員
高田　　茂	〃	委員
津田　康則	〃	委員（こころに寄り添い合う人づくり委員会　委員長）
田中　玉美	〃	委員（　〃　副委員長）
藤田　珠美	〃	委員（見守り・助け合い推進委員会　委員長）
木戸　幸平	〃	委員（　〃　副委員長）
冨田　静香	〃	委員（　〃　副委員長）
栗山　よしみ	〃	委員（くらし応援委員会　委員長）
山崎　静男	〃	委員（　〃　副委員長）

以上　１１名（敬称略）

１．評価の方法

能美市地域福祉活動計画（以下「福祉活動計画」と略）の一年間の活動成果を報告する場である「春まちぽかぽかプロジェクト（以下「春ぽか」と略）」は、今年度は、感染防止対策に十分配慮して、リモート会議形式も導入しながら、令和４年２月１９日～２７日の９日間、規模を縮小し、ハイブリッド形式で実施されました。３委員会の報告会や、最終プログラムの「地域福祉のつどい」で、第３次福祉活動計画から第４次福祉活動計画につなぐことについて確認されました。

評価委員会には、３委員会から最終報告が提出され、それぞれの「自己評価」について意見交換を行いました。３委員会は相互に現状を理解し、取り組みで見えてきた課題を再確認して、第３次福祉活動計画の最終４年目の総合評価としました。

２．報告について

令和４年度に開催される市社会福祉協議会の理事会（６月６日（月））・評議員会（６月２２日（水））へ評価委員会の評価を報告します。（評価の公表は、３年目の令和２年度と、５年目の令和４年度の活動終了時に行うことになっていましたが、第３次福祉活動計画が令和３年度（４年目）で完了することとなりましたので、令和３年度の活動終了時の報告をもって第３次福祉活動計画は終了します。）

令和４年４月２０日

令和３年度
第３次能美市地域福祉活動計画 最終４年目の取り組みについての報告

第３次能美市地域福祉活動計画評価委員会
委員長　　高　塚　亮　三

第３次能美市地域福祉活動計画（第３次福祉活動計画）の４年目の取り組みは、令和４年４月２０日に開催しました評価委員会をもって、全ての日程を終了いたしました。ここに評価委員会より報告いたします。

「春ぽか」は２月１９日～２７日の９日間実施されました。当初１７プログラムが予定されていましたが、そのうち５プログラムがコロナ禍に配慮し中止になりました。今年の「春ぽか」の会場参加者は５１１名、オンライン参加者は７５名、同時に開催された協賛事業であるパネル展示とミニコンサートの参加者は２８５名で、累計８７１名の方が参加されました。プログラムの参加形式としてオンラインの参加者を増やすためには、事前のパソコン教室開催による普及を図ることも必要かもしれません。

１．「春ぽか」に参加した評価委員の感想

１）傾聴の講座に参加して感じたことは、傾聴は障害のある方や高齢者に向き合う時ばかりでなく、どなたともコミュニケーションを図る上で大切なスキルです。普段から傾聴の講座があるとよい。
傾聴の講座で『聴き方は口を挟まず、相手の話に相槌を打ち、話が一段落したら相手の言葉を繰りかえすことで相手の気持ちを理解する』スキルを学んだ。
このようなスキルが潤滑油となり、誰一人取り残さない対応が可能になるのではないかと思った。

２）社会を繋いでいくためには、試みの結果がどうであったかを反省してみて、やりっぱなしではなく、評価まで行うことが大切。

３）障害者施設が地元にできることに迷惑施設としてまだ反対する人がいる。障害者本人、施設、地元民が一緒になって盛り立てる機運が欲しい。

４）地域福祉委員会の運営を寸劇で行ったのがよかった。地域福祉委員会の運営方法が良く理解できた。民生委員、福祉推進員、健康づくり推進員だけでなく、婦人会や壮年団なども地域福祉委員会のメンバーに加わっていたのがよかった。

５）「春ぽか」が実施できたことがよかった。１年間を振り返るには、一年間の活動内容の発表会はどうしても必要だ。

６）見守り・助け合い推進委員会としては「春ぽか」に町内会長や福祉推進員等にたく

さん来ていただきたい。そこで得た情報を地元に持ち帰ってもらいたい。

7）「春ぽか」への参加者は一般市民だけでなく、市役所の職員も参加して頂けるとありがたい。福祉以外の部署からの参加は市の総合計画に照らしてみる良い機会になる。

2．各委員会の自己評価

こころに寄り添い合う人づくり委員会「以下「人づくり委員会」」

1）どのように進めてきたか

○共生に対する理解を深め、地域ぐるみで人を育てるという意識づくりを推進

① 地域福祉委員会に出掛けて行き「人づくり講座」を開いた。

② 児童館に出掛けて行くために準備する内容を精査：人権啓発ＤＶＤ『桃色のクレヨン』を題材とした啓発活動：障がい児の特性を理解してもらう。障がい児は独特の感性で物事を捉える

③ 障がいのある方や子育て世代の母親が孤立しないために周囲の地域住民に気付いて欲しいこと：孤立は当事者個人の問題ではなく、気付けない周囲の問題であることを広めていく。

④ 発達障がい児を育てる母親が医師から発達障がいの特徴について説明を受け、障がい児に寄り添うようにしたところ、母親自身の心も楽になり、子供の行動を理解できるようになった。

○地域に積極的に出掛けていくことで、障がいに対する地域の理解や、大切な気づきの機会を進めた。

2）取り組みの中で見えてきた課題

○待っているのではなく、地域に出掛けていくことが大切。

○地域が変わらないと何も変わらないことにどうしたら気づけるか。

○支援が必要な人が集える場所作りが必要。

○児童館に出掛けると色々な年齢の子供がいるため、どの年齢に照準を合わせて話を進めるかは難しいが、子供の中には、援助を必要とする人と触れ合える機会を持った子供もおり、必ずしも年長組が気づけるとは限らない。

3）今後に向けてどう進めるか

○「引きこもり」「不登校」にどう対応するかについて考える。

○解決策が直ぐ見つかる訳でないので、常に当事者の声に耳を傾け、向き合いながら、あきらめずに模索する。

見守り・助け合い推進委員会

1）どのように進めてきたか

○地域見守り活動ポイントリストを活用し、見守り活動の周知啓発を進めた。

○コロナ禍で住民同士が触れ合うことが難しくなったことから、新しい見守り助け合い活動の方法やつながるための工夫について協議した。

○コロナ禍でも見守り助け合いの活動やつながるための工夫をしている事例を紹介し情報の共有を進めた。

○地域で活動するボランティアや担い手を確保するための方法について協議した。

2）取り組みの中で見えてきた課題

○住民が安心・安全に暮らしていくためには地域のことを話し合える場が必要。

○話し合いの中から気になることや困りごとを把握し、個人の問題を地域の問題と捉え、解決に向けて話し合う場が必要。

○地域の状況は一様ではなく、地域に合った助け合いの方法や仕組みを考える必要がある。

○集まることや触れ合うことが難しい状況の中で、ＩＣＴを活用してつながり、情報を共有することが必要。

○活動するボランティアや担い手が不足しており、あらゆる世代の人や多様な人材に福祉に関心を持ってもらうきっかけを作ることが必要。

3）今後に向けてどう進めるか

○「地域福祉委員会」活動の充実を進める。

○各町の取り組みや、助け合い活動グループの事例を学び、情報共有を進める。

○ＩＣＴを活用した情報共有を進める。

○福祉施設、企業、商店との連携を進める。

○地域における助け合いの担い手や理解者の拡充を進める。

くらし応援委員会（令和３年度に出来た委員会）

1）どのように進めてきたか

○コロナ禍で生活困窮という言葉は急にクローズアップされ、そこからフードドライブ実施に至る。

○フードドライブ実施をきっかけに生活困窮だけでなく、色々な困りごとを抱えた家庭の実態が明らかになる。

○「みんなでつながろう」「ともに、助けたり助けられたりする社会」を目指して、くらし応援委員会ができたことを共有した。

○地域で困っている人は、生活困窮者の方、障がいのある方、ひとり親の方、高齢者、

コロナ禍で仕事ができなくなった外国の方など事情は様々であり、事情が異なっても、なんとかしてつながることが大切。

○フードドライブは年４回実施された。フードドライブで集まった沢山の食品の整理や管理の作業を寺井高校の生徒、ひとり親の親子、生活保護の方、精神障がいのある方など、色々な方が手伝ってくれた。まさに助けたり、助けられたりという状況が自然と出来上がっていった。食品をもらいに来ただけではない。そこに自分の居場所ができたのだ。さらに、それぞれの役割が出来上がっていった現状を確認した。

○この実態を利用して、令和３年２月に、生活支援を必要とする方が、早期につながる必要があることを啓発するために、民生委員・児童委員や地域で見守り活動を行っている関係団体に向けて、「共生社会を考える研修」を実施した。

○フードドライブ連絡会立ち上げ時には参加していなかった方も、新たにこの輪に加わって頂き、幅広く情報を拡散することができた。早期につながり、助けを求めることができる仕組みができ、愚痴をこぼして気持ちを発散させるという、幾重もの機能が生まれた。

○令和３年度の冬は雪が多く、除雪が必要となったが、若い外国の方がフードドライブで集まった食品を受取りに来た際に除雪を申し出てくれた。助け合い活動をしたことで、本人たちもより一層気持ちよく配付された物を受け取ることができただろう。また、除雪だけでなく、色々の作業も手伝ってくれ、帰り際に嬉しそうに食品を受取り、充実した表情で帰って行かれた。

２）取り組みの中で見えてきた課題

○子ども食堂で実施している「ひとり親世帯や生活困窮者世帯への弁当」の配布場所はつながりを創る場だが、現在寺井地区１か所のみの実施です（追記：コロナ禍前に大成町の法林寺で一度子ども食堂が実施されたが、その後中断し、令和４年に入って一度実施された）。支援を必要とする世帯に広く行き渡るためにはまだまだ拠点を増やす必要がある。

○フードドライブ活動の意義や活用法を知らない方が多く、周知させる必要がある。

○生活困窮者やひとり親世帯、生活に困っている外国の方々への住民の理解も充分だとは言えず、困っている方の声を幅広く拾い上げるためにも、多くの住民の方に関心を持ってもらいたい。

３）今後に向けてどう進めるか

○生活に困った方が相談できる場や機会を増やしていく

○多様な主体がそれぞれの強みを生かして助け合い活動を行い、その輪が広がり、ネットワークを作り、更にこの輪を充実させる。

○ＩＣＴを活用した情報の入発信は、人手を沢山必要とする子ども食堂の環境整備に役立つと思われ、ＩＣＴ活用を進める。

○高校生のボランティアは福祉教育につながり、将来に亘って能美市の財産となっていくと考えられ、更に充実するように進める。

○くらし応援委員会は、フードドライブを通じて、色々な人たちが活躍できる場を提供できることが分かった。この事業を手伝ってくれている寺井高校生から「能美市は優しいまち」「困っている人が居なくなるといいな」などと言う言葉に、収入、資産による豊かさよりも「内面的な豊かさ」（ウェルビーイング）を身に付けた次代を担う若者の頼もしさを感じる

３．評価委員会の意見交換

３つの委員会の自己評価を受けて、評価委員で意見交換を行った。
（○は委員意見、★は情報・解説を記載）

○最近の人づくり委員会は、主に障がいのある方について取り組んできた。高齢者や認知症に対する取り組みは障がいのある方と同じ取り組みであってよいのか。ノーマライゼーションで全ての福祉がカバーできるのか。
○ユニバーサルデザインの環境で、誰もが住みやすい社会になるのか。
★　ノーマライゼーションとユニバーサルデザインの違い
　ノーマライゼーション：社会的少数派に普通の生活や権利を保障
　ユニバーサルデザイン：一切の能力を問わず快適に利用できる設計

○地域福祉活動計画を通して、能美市のすべての町会・町内会に設置されている地域福祉委員会を活用すれば、高齢者も障がい者もつなげることが出来るのではないか。
○地域福祉委員会と言っても町会、町内会により、構成する人は違っている。
○地域福祉委員会と言っても町会、町内会の規模も違えば、歴史的背景も違い、これを変えるのは大変である。
○各町の地域福祉委員会は男性中心で運営され、女性が入るのは難しい状況のところもある。
○副町内会長が必ず１人女性になっている町会もあり、女性の意見が出し易い雰囲気が作られている。
★　現状の日本社会にはジェンダーギャップがある（日本のジェンダーギャップ指数２０２１年は０．６５６、順位は１５６ヶ国中１２０位）

○民生委員・児童委員の負担になり過ぎる場合もある。
○地域の役を退くと全く会の世話に背を向ける人がいる。役を退いても協力的であって欲しい。
○地域の資源として、のみ活倶楽部やいきいきサロンがあるが、町により性格が微

妙に違っていて、使い勝手も微妙に違う。
○コロナ禍で地域の人と施設との交流がしにくくなっている。
○生活困窮者イコール貧困でない。
○生活する上で誰もが色々な課題を抱えている。
○フードドライブをやって分かったことは「生活困窮者は貧困に関わりなく、単に生活に課題を抱えている人」と言うこと。

４．最後に

第３次福祉活動計画は４年で打ち切りとなる異例の扱いとなりました。これは能美市地域福祉計画（以下「市福祉計画」と略）の策定の１年後に、第４次福祉活動計画を策定してきたものを、同期させるための変更です。

第３次市福祉計画はこの３月で完了し、これに続く第４次市福祉計画は第２次能美市総合計画及びＳＤＧｓ未来都市計画等との整合性を図りながら作成されることになりました。しかし、「誰一人取り残さないための支援づくり」を実践するためには、従前にも増して当福祉活動計画との連携強化を図る必要があります。このような事情のもと、第４次福祉活動計画は１年前倒しし、令和４年度よりスタートすることになりました。

日本は数少ない先進３４カ国の一員ですが、その日本でも貧困や差別、環境破壊等の課題を抱えています。令和３年度はＳＤＧｓの考え方を深く理解し、多様性（ダイバーシティ）や包摂（インクルージョン）と言った考え方にも徐々に理解してきた１年間でした。

また、令和３年度も終わろうとしていた２月２４日にロシアがウクライナに攻め込み、戦争が始まりました。国際社会からはロシアへの厳しい非難の声が上がっていますが、日本周辺の状況を見回した時、決して遠い国の話ではなく、身近なこととして捉えることも必要であるように思われます。大きく揺れ動いている世界の中での日本、その中の能美市は共生社会をしっかりと構築し、世界に対しても確かな判断ができる環境を整えておく必要があるように思います。ＳＤＧｓの目標を通して能美市民も、世界の人々と連帯し暮らしやすくなるように、一つひとつの課題に丁寧に向き合っていきたいものです。

今回の評価委員の意見交換から、地域のなかでの活動のしづらさを乗り越えて、福祉意識の醸成に進んでいかなければならないことを、発言の端々に感じられたと思います。このことを次期活動計画の課題として、引き継いでいきたいと思います。第４次活動計画の基本目標となる「助けたり、助けられたりの地域づくり～誰一人取り残さない、取り残されない～」の中に込められた、多様性を地域全体で受け止め、助ける側も助けられる側も共に手を携えて暮らす地域をめざして、第３次から第４次活動計画へ繋いでいきたいと考えています。

推進する委員会	令和3年度 こころに寄り添い合う人づくり委員会 評価シート					
第3次計画の指標	指標項目	指標数値	H30実績	R元年度	R2年度	R3年度
	・地域における「ふれあい行事」の開催数(単年度数)	300回	300回	299回	70回	193回
	・障がいのある方（その親等）の仲間作りと社会参加を目的とする交流の機会の開催数(単年度数)	30回	25回	34回	27回	32回
	・子育て支援に関する集いの場の実施回数（単年度数）	140回	136回	145回	235回	191回
	・地域における福祉体験・共生理解の体験者の延べ人数（単年度数）	5,500人	4,572人	3,765人	2,415人	3,365人
第3次計画でめざすこと	◆地域の中で気軽に悩みを相談したり、話し合える場・集いの場づくりを進めます。 ①障がいに対する理解を深める場・機会づくりを進ます。 ②福祉施設と住民が話し合う研修や連携の情報交換の場づくりを進めます。 ③地域ぐるみで子育てを考える場・機会づくりを進めます。 ◆福祉教育の充実に向けての機会づくりを進めます。 ④多様な世代が関わる学びの話し合いの機会づくりを進めます。 ⑤男性が子育てや共生社会に対して理解を深める機会を進めます。 ⑥企業・事業所等が子育てや共生社会に対して理解を深める機会づくりを進めます。 ⑦困窮世帯や孤立世帯への見守りや寄り添いなどの理解を深める機会づくりを進めます。					
第2次計画での課題	・年々、講座の参加者が増えていることは、関心のある方が増えていることだと感じているが、参加者が民生委員･児童委員や福祉関係者などに固定しており、幅広く市民が参加できるような工夫が必要。また、障がいのある方の心に寄り添うということへの理解を進めることが必要。					
どのように進めてきたか（4年目）	・共生に対する理解を深め、地域ぐるみで人を育てるという意識づくりを進めるため、今年度も障がいに関する理解と啓発の活動内容について協議を重ねた。 また、令和３年度は、第３次地域福祉活動計画の(最終年度)４年目であり、３年目の成果を確認し、課題に対して協議を重ね、さらに４年間の積み上げてきた内容の振り返りを行いながら、第４次計画にむけて目指す内容について協議した。 ・障がいのある方や子育て世代の母親が地域で孤立しない為に地域住民の意識づくりについて、協議を深めた。 ・福祉教育の充実に向け、放課後学童クラブや、小学校の児童に、人権啓発DVD『桃色のクレヨン』、『絵本』、『紙芝居』を題材に啓発活動を行い、児童が障がいの特性を理解し“こころに寄り添い合う”ということや、“思いやりの心の大切さ”を学ぶ機会につなげた。 また、身近な地域に障がいについての理解啓発として、地域福祉委員会へ出前講座に出向き啓発活動につなげた。 ・春まちぽかぽかプロジェクトにて、「令和３年度こころに寄り添い合う人づくり講座」を会場とオンラインのハイブリット型で実施し、精神に障がいのある方や、発達障がい児を育てる母親の思いを聞き、こころに寄り添い合う意識づくりを進めた。					
取り組みの中で見えた課題（4年目）	・障がいのある方もない方も共に地域で暮らしていくという意識を広めるためには、理解啓発の機会がまだまだ必要であること。 ・地域で誰もがその人らしく暮らしていくためには、『こころに寄り添い合う人づくり講座』などの考え合う機会の継続が必要であること。 ・福祉教育では、幼少期から障がいに対する正しい知識を得て、理解を深めることが必要であること。					
今後に向けてどう進めるか	・私たちが暮らす地域の多様な人々に対して、地域ぐるみで共生意識の理解を深める。 ・福祉教育の推進として教育関係者や団体が連携し、共生意識を高め、考える場や機会をつくる。 ・多様な人々の思いや願いを共有できる場や機会をつくる。 ・孤立しない子育て支援について地域ぐるみで考える場や、機会をつくる。 ・研修や啓発活動の機会にICTを活用し、情報発信を進める。					

第3次計画を推進する委員会	令和3年度 こころに寄り添い合う人づくり委員会 経過シート	
★第3次計画でめざすこと	◆地域の中で気軽に悩みを相談したり、話し合える場・集いの場づくりを進めます。 ①障がいに対する理解を深める場・機会づくりを進めます。 ②福祉施設と住民が話し合う研修や連携の情報交換の場づくりを進めます。 ③地域ぐるみで子育てを考える場・機会づくりを進めます。	◆福祉教育の充実に向けての機会づくりを進めます。 ④多様な世代が関わる学びの話し合いの機会づくりを進めます。 ⑤男性が子育てや共生社会に対して理解を深める機会を進めます。 ⑥企業・事業所等が子育てや共生社会にたいして理解を深める機会づくりを進めます。 ⑦困窮世帯や孤立世帯への見守りや寄り添いなどの理解を深める機会づくりを進めます。

実践活動内容（どんな事を話し合い、行ったか）		
	第1回会合(6/10)	1)委員紹介、自己紹介 2)委員長・副委員長の選出　津田委員長・田中副委員長・清水副委員長 3)経過説明 ・第3次活動計画3年目の取り組みについて振り返り 4)今年度の協議の方向性及び年間開催予定(頻度)について検討 ・昨年度の評価委員会の報告のとおり、障がいについて考える理解・啓発の機会づくりとして、気持ちに寄り添った関わり方を学ぶ「人づくり講座」を継続的に開催し、学びと実践につなげていくことを確認 ・毎月1回委員会を開催
	第2回会合(7/28)	1)委員全員の障がいに対する思いについて共有と課題の整理 2)障がいへの理解啓発のための紙芝居の内容協議
	第3回会合(8/24)	1)委員の思いの方向性を確認するために、委員長が作成した『人権について』の資料にて障がいに対する思いの方向性を共有し、勉強会を実施 2)今年度の人づくり委員会としての具体的な今年度の取り組みについて協議を深めた。啓発活動については、放課後児童クラブと地域福祉委員会への福祉の意識啓発を行うことを確認
	第4回会合(9/27)	1)放課後児童クラブへの啓発活動の手法について、①紙芝居 ②絵本 ③桃色のクレヨンDVDを活用し、冬休みの期間に出向く際の内容について、介入方法や気を付けること等についてグループワークを実施 2)地域福祉委員会への出前講座の内容について検討 ①障がいとは何か ②事例紹介 ①②をセットで地域福祉委員会へ出向くことを確認
	第5回会合(10/25)	1)第4次活動計画にかかる委嘱状交付式及び第1回検討会・第1回策定委員会(10/15) 報告 2)放課後児童学童クラブへの啓発活動について 根上:中央　寺井:寺井&湯野　辰口:宮竹・国造&緑が丘で調整→(緑が丘中止) 3)辰口図書館での『おはなし会』にて啓発活動を行うことを確認 →(中止) 4)地域福祉委員会への出前講座の内容について確認 根上:中町　寺井:末信町・泉台町　辰口:寺畠町 で調整→(末信、泉台で実施) 5)11/11(木)市民児協障がい者福祉部会との合同研修会の内容確認
	第6回会合(11/11)	1)市民児協障がい者部会との合同研修会 『こころに寄り添い合う人づくり講座』開催 テーマ:生きることはつながること～難病の語り部として～ 講師:佛子園 野田町コーヒー 辻 里恵 氏 2)放課後児童クラブ啓発活動、地域福祉委員会出前講座の内容確認(末信町) 3)春まちぽかぽかプロジェクト 『こころに寄り添い合う人づくり講座』の内容協議
	第7回会合(12/22)	1)12/11(土)障害者週間記念事業『ぽくらのまちフェス』にて、人づくり委員会の取組みPR用パネル展示に参加 2)春まちぽかぽかプロジェクト 『こころに寄り添い合う人づくり講座』の内容協議 3)地域福祉委員会出前講座の内容確認 4)各放課後児童クラブへ出向く担当決めを行い、各グループに分かれて内容協議、調整
	第8回会合(1/22)	1)第4次活動計画のめざすことについて内容確認 2)放課後児童クラブへの啓発活動の振り返り、次年度に向けての思いを確認 3)春まちぽかぽかプロジェクト 『こころに寄り添い合う人づくり講座』の内容協議
	第9回会合(2/21)	1)春まちぽかぽかプロジェクト 『こころに寄り添い合う人づくり講座』の内容最終確認 コロナ禍により、グループワークは行わず、個人ワークで調整し、個人ワークの内容協議
	第10回会合(2/23)	春まちぽかぽかプロジェクト こころに寄り添い合う人づくり講座 実施(オンライン+会場参加型) 『～共に生きるってどんなこと？みんなでみんなを考えよう！～』 参加者:46名(オンライン10名、会場:36名) 当事者の思い・・・①能美地域活動センターはまかぜの職員と当事者との対談、 ②発達障がい児を育てる母親の思い 加藤 優子 氏
	第11回会合(3/16)	1)春まちぽかぽかプロジェクト こころに寄り添い合う人づくり講座及び、一年間の取り組みの振り返り 2)今後に向けての内容の確認 3)第4次活動計画のめざすことの内容確認

推進する委員会	令和3年度 見守り・助け合い活動委員会 評価シート

第3次計画の指標

指標項目	指標数値	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績
・地域福祉委員会の実施回数（単年度数）	950回	688回	632回	464回	493回
・いきいきｻﾛﾝ・地域ｶﾌｪ、公民館開放等の実施回数（単年度数）	1,580回	1,203回	2,003回	1,153回	1,033回
・地域福祉委員会ヒント探し講座【入門編】修了者数（地域福祉委員会活動推進員登録者数）	400人	327人	354人	382人	405人（381人）
・地域福祉委員会と連携をとる地域内の「生活支援の助け合いグループ」把握団体数（累計数）	12団体	8団体	12団体	15団体	16団体
・ボランティア登録人数（単年度数）	5,000人	3,953人	3,834人	3,575人	3,359人
・ボランティア登録団体数（単年度数）	100団体	97団体	100団体	97団体	91団体

第3次計画でめざすこと

◆地域の中で気軽に悩みを相談したり、話し合える場・集いの場づくりを進めます。
①地域福祉委員会における地域ぐるみの見守り・助け合い活動の活性化を進めます。
・認知症・権利擁護・虐待・生活困窮・社会的孤立・住宅問題
・就労問題等多様な問題やその対応を学び、解決に向けて取り組むことを進めます。
また、自主防災組織との連携などを進めます。
②福祉施設・企業・商店等も含む地域ぐるみの見守り・助け合いの連携を進めます。
③地域住民ができる生活支援に関する助け合い活動の拡充を進めます。

◆多様な人材がボランティアや助け合い活動に関わることを進めます。
④地域における助け合いの担い手や理解者の拡充を進めます。

第2次計画での課題

◆地域での見守り・助け合い活動に関しては温度差があり、進んでいる町会と進んでいない町会の差がある。進んでいない町会に対しての更なる啓発や意識づけが必要である。

◆少子高齢化が進み、また、世帯構成においても核家族化が進むため、高齢者世帯や高齢者単身世帯が増加する事に伴い、社会的孤立が懸念される。今後は複合的に様々な課題を地域から拾い上げていく必要がある。また、専門職が地域とどう関わるのか、その仕組みも必要である。

◆地域やサービス事業者等が連携することで地域の中の施設が果たす役割・貢献を考える研修や実践が必要である。また、サービスだけでは困難なことも、地域資源と本人（希望や課題）をつなげることが必要である。

どのように進めてきたか（4年目）

◆日頃の住民同士のつながりを活かした見守り・助け合い活動をすすめるためにポイントリストを活用し、見守り活動を周知啓発してきたが、コロナ禍により活動が制限され、つながることが難しくなったことから、令和２年度にアンケートをとり、地域の実情を把握した。そして工夫している取り組みの情報を共有する機会をもち、啓発をすすめてきた。

・コロナ禍により活動が制限され、つながることが難しくなったことから、地域の中で相談したり話し合える場が必要であることを確認し、地域での新しい見守り助け合いの方法や、つながるために工夫している取り組みの情報を共有する機会をもち、啓発をすすめることについて協議をしてきた。
・人が集うことが難しい中でも地域の声を拾い、解決策を話し合い助け合いの活動につなげるしくみや、直接会えなくてもつながる工夫をしている事例を住民に周知していくための協議を進めてきた。
・地域で活動するボランティアや担い手の不足も課題となっており、個人の問題を我が事と捉え、助け合いの意識を向上させていくことについて協議した。

取り組みの中で見えた課題（4年目）

・住民が安心・安全に暮らしていくために、地域のことを話し合える場が必要であり、話し合いの中から、気になることや困りごとを把握し、個人の問題を地域の問題と捉え、解決に向けて話し合う場が必要。
・市内には様々な規模の町内会があり、地域での福祉活動には温度差があるが、それぞれの町に合った見守りや助け合いの方法やしくみがあり、それぞれの町の状況を把握し、情報を共有していくことが必要。
・人が集まることや、ふれあいつながることが難しい状況の中で、ICTを活用してつながり、また、情報を発信することや収集する方法を考えることが必要。
・地域で活動するボランティアや担い手不足が課題であり、あらゆる世代の人に福祉に関心を持ってもらうきっかけを作ることが必要。

今後に向けてどう進めるか

・私たちが暮らす地域をよくするために、地域を基盤とする「地域福祉委員会」活動の充実を進める。
・各町の取り組みや、助け合い活動グループの事例を学び、情報共有を進める。
・ICTを活用した情報共有や、地域活動の情報発信を進める。
・福祉施設・企業・商店との連携を進める。
・地域における助け合いの担い手や理解者の拡充を進める。

第3次計画を推進する委員会	令和3年度　見守り・助け合い推進委員会　経過シート	
★第3次計画でめざすこと	◆地域の中で気軽に悩みを相談したり、話し合える場・集いの場づくりを進めます。 ①地域福祉委員会における地域ぐるみの見守り・助け合い活動の活性化を進めます。 ・認知症・権利擁護・虐待・生活困窮・社会的孤立・住宅問題 ・就労問題等多様な問題やその対応を学び、解決に向けて取り組むことを進めます。また、自主防災組織との連携などを進めます。 ②福祉施設・企業・商店等も含む地域ぐるみの見守り・助け合いの連携を進めます。 ③地域住民ができる生活支援に関する助け合い活動の拡充を進めます。	◆多様な人材がボランティアや助け合い活動に関わることを進めます。 ④地域における助け合いの担い手や理解者の拡充を進めます。

実践活動内容（どんな事を話し合い、行ったか）		
	第1回会合(6/10)	1)委員紹介、自己紹介 2)委員長・副委員長の選出　　藤田委員長・木戸副委員長・冨田副委員長 3)経過報告 これまでの3次計画の1・2・3年目の取り組みについて振り返り 4)今年度の協議の方向性及び年間開催予定(頻度)について 地域での見守り・助け合い活動の推進につなげるための研修の機会をもつ。また、地域の状況にあわせた支援や、推進のために必要な具体的な取り組みについて協議を行う。 毎月1回委員会を開催する。
	第2回会合(7/15)	1)第1回こころ豊かな地域づくりの会の報告 ・・・今年度の取り組みスケジュールについての検討と確認 2)見守り・助け合い推進委員会の方向性についての確認 第3次活動計画でめざすことを確認し、第3次の最終年度となるため、まとめと4次につなぐ話し合いを行っていく 3)見守り・助け合い活動について意見交換
	第3回会合(8/26)	1)見守り・助け合い推進委員会のSDGsの研修について 見守り・助け合いにつながる内容であることが重要。実施については検討が必要 2)各地域の支え合いや助け合い活動について報告し合い、意見交換・協議
	第4回会合(9/24)	1)地域福祉委員会活動連絡会について報告 2)グループワーク　・・・3グループに分かれて地域における担い手や理解者の拡充について意見交換・協議 3)市より・・・のみみまもりあいアプリについての説明(鶴見委員)
	第5回会合(10/20)	1)地域福祉活動計画にかかる委嘱状交付式及び第1回策定検討会・第1回策定委員会について報告 2)福岡町地域福祉委員会の開催について経過を報告(前田委員) 3)春まちぽかぽかプロジェクトにおける見守り・助け合い推進委員会の報告の機会についての検討
	第6回会合(11/25)	1)第2回こころ豊かな地域づくりの会の報告 2)春まちぽかぽかプロジェクトにおける見守り・助け合い推進委員会の報告内容について意見交換、協議 ・委員による寸劇で、地域福祉委員会の意義について理解を深められるよう、分かりやすく表現する。 ・グループワークにて情報交換、共有の機会をもつ 3)フードドライブ、フードパントリーの開催について
	第7回会合(12/23)	1)春まちぽかぽかプロジェクトにおける見守り・助け合い推進委員会の報告内容について協議 ・プログラムの目的を確認。内容は寸劇・活動紹介(粟生町・九谷町)・グループワークに決定し、テーマ(タイトル)、寸劇シナリオ、当日役割とグループワークの進め方を確認 ・周知は、町内会長を対象に周知し、町内会長から地域の人へ声掛けしてもらう
	第8回会合(1/14)	1)第3回こころ豊かな地域づくりの会の報告 2)春まちぽかぽかプロジェクトにおける見守り・助け合い推進委員会の報告内容について協議 「地域福祉委員会ってなあに？～やってみよう！我が町流の福祉活動～」にテーマを決定。 コロナ感染状況を鑑み、グループワークを個人ワークに変更することを検討
	第9回会合(2/17)	1)春まちぽかぽかプロジェクトにおける見守り・助け合い推進委員会の報告会最終確認 一連の流れでリハーサルし、当日のタイムスケジュール、役割を確認
	第10回会合(2/23)	春まちぽかぽかプロジェクト　見守り・助け合い推進委員会の報告会をオンラインと会場参加のハイブリッド形式で開催 寸劇・活動紹介・寸劇・活動紹介・質疑応答・個人ワーク・意見交換 ※地域福祉セミナー、地域福祉委員会活動推進員研修会を同時開催
	第11回会合(3/10)	1)春まちぽかぽかプロジェクト報告会の反省及び委員会活動を振り返り 2)第3次地域福祉活動計画のまとめ、第4次地域福祉活動について今後の見守り・助け合い推進委員会の方向性について確認。

推進する委員会	令和3年度 くらし応援委員会 評価シート					
第3次計画の指標	指標項目	指標数値	H30実績	R元年度	参考 R2実績	R3年度
	・フードドライブ実施回数 （単年度数） 市内実施				4回	17回
	・フードドライブでつながった 生活支援のネットワーク団体数				17団体	29団体
	・フードドライブの配付件数				180件	217件
第3次計画でめざすこと	◆フードドライブを通して、「住民同士の助け合い活動」がより良いものになるように進めます。 ①「思いやる」気持ちを集め、多様な人が「つながる」場をつくり誰もが役割を発揮して「支え合う活動」につなげて いきます。 ②生活支援を必要としている方が早期につながり、誰もが安心して暮らせる地域となるようにすすめます。 ◆「支える側、支えられる側」の関係を超えた共生の社会を目指します。					
どのように進めてきたか (1年目)	・令和２年度に、能美市社会福祉協議会がフードライブを実施したことで、フードドライブに協力している市民団体や行政、支援を必要としている方や団体がつながり「のみフードドライブ連絡会」が立ちあがった。更に、ネットワークを広げ、令和３年度「くらし応援委員会」と改称して、地域福祉活動計画の委員会となり、誰もが安心して暮らせる地域を目指して話し合いをすすめた。 ・委員会にて、市内の生活困窮の方やひとり親世　帯、外国人の困りごとの現状を共有し、住民同士の助け合いが必要であることを確認し合った。 ・市民の助け合いの活動として「フードドライブ」を実施。 令和２年度：年４回実施 令和３年度：年４回企画し、実施予定。 ・寺井高校や各種市民団体へ、助け合いの活動である「フードドライブ」の取り組みについての周知をすすめた。 ・令和３年２月に、生活支援を必要としている方が早期につながることが必要であると啓発するために、地域で見守り活動をしている民生委員や関係団体に向けて共生社会を考える研修会を実施。 内容：「フードドライブのつながりから生活支援を考える　そして、共生社会を考えよう」 ・生活に困っている方々と直接、または、それらの人々が関わる団体を通して、早期につながることができるように情報交換をすすめた。 ・生活困窮に陥っている方を、フードドライブで集められた食品の仕分けなどの作業に誘い、協力してもらう機会をつくった。 ・地域で困っていた除雪作業に、フードドライブの食品を配付している外国の方々に協力してもらい、御礼にフードドライブの食品を渡すなどのつながりづくりを広めた。					
取り組みの中で見えた課題 (1年目)	・子ども食堂が実施している、「ひとり親世帯や生活困窮世帯へ弁当」の配付場所はつながる場であるが、寺井地区１か所のみであり、根上･辰口地区の支援を必要としている世帯には遠いため、拠点を増やしたいとの課題があり、地域理解を更に進めていくことが必要。 ・フードドライブ活動の意義やその使途を知らない方が多いため、周知する必要がある。 ・生活困窮の方やひとり親世帯、日本で生活する外国の方で生活に困っている方々への住民の理解が充分とは言えないため、困っている方の声を拾い上げて地域で支え合うという理解を進めていくことが必要。					
今後に向けてどう進めるか	・私たちが暮らす地域に相談できる場や機会をつくる。 ・多様な主体が、それぞれの強みを活かした助け合い活動につなげる話し合いの場をつくりネットワークづくりを進める。 ・情報発信や情報入手についてICTを活用し、環境を整えていく。 ・地域における助け合い活動の意識啓発を進める。 ・地域で活躍する場が広がるように進める。					

第3次計画を推進する委員会		令和3年度　くらし応援委員会　経過シート
★第3次計画でめざすこと		◆フードドライブを通して、「住民同士の助け合い活動」がより良いものになるように進めます。 ①「思いやる」気持ちを集め、多様な人が「つながる」場をつくり誰もが役割を発揮して「支え合う活動」につなげていきます。 ②生活支援を必要としている方が早期につながり、誰もが安心して暮らせる地域となるようにすすめます。 ◆「支える側、支えられる側」の関係を超えた共生の社会を目指します。
実践活動内容（どんな事を話し合い、行ったか）	第1回会合(6/10)	1)委員紹介、自己紹介 2)委員長・副委員長の選出　栗山委員長・山崎副委員長・近藤副委員長 3)経過説明 ・第3次活動計画4年目であることを確認。第4次は、市の「福祉計画」と同時期で進めることを説明し、今年度最終年度であることの確認。また、くらし応援委員会になるまでの経過の確認。 4)今年度の協議の方向性及び年間開催予定(頻度)について検討 ・「フードドライブ」を年4回実施を決定、企画を検討。⇒7月3日(土)・4日(日)午前10時～12時 ふれあいプラザ ⇒常温保存食のほかに、今、必要とされている野菜の「玉ねぎ・じゃがいも」と生活用品のひとつとして「生理用品」を限定して集めることとした。 ・毎月1回委員会を開催。
	第2回会合(7/20)	1)市生活環境課がより10月の食品ロス削減月間に併せて、フードドライブにてコラボしたいとの打診に了承。 2)各委員より、市内で生活に困っている状況を話合い共有。支援につなげる内容を検討。 ＊フードドライブ実施:7月3日(土)・4日(日)午前10時～12時 ふれあいプラザ
	第3回会合(8/19)	1)2回目フードドライブ実施に向けての検討。会場をふれあいプラザとリサイクルセンターで行うことを確認。 フードドライブへの感謝とリピーター、収集などにフードドライブシールを作成。就労が減っている状況を聞き、B型作業所に依頼。 2)フードドライブ実績報告。
	第4回会合(9/9)	1)グループ討議 第2回、3回委員会にて確認し合った現状と課題、関係機関の取り組みを確認し、今後必要とされる取り組みを検討。 そこから、第4次活動計画のワーキンググループとして、4次につなげることの検討。
	第5回会合(10/21)	1)生活環境課とのコラボについて担当職員が委員会に参加し、内容を確認。 2)春まちぽかぽかプロジェクトでの委員会報告ついて検討。 ＊フードドライブ実施:10月2日(土)・3日(日)午前10時～12時 ふれあいプラザ、 10月30日(土)午前9時～12時ふれあいリサイクルセンター、根上くるくる工房 10月31日(日)午前9時から12時岩内リサイクルセンター ・寺井高校JRC部ボランティア参加。
	第6回会合(11/18)	1)3回目フードドライブ実施に向けての検討。12月に行なう歳末たすけあい入札展と併せて実施。 2)策定委員会へのくらし応援委員会の報告からJA能美の生産者の方と三道山子ども食堂がつながり「おもいやり野菜箱」設置のしくみにつながったの経過報告。 3)フードドライブ実績報告。
	第7回会合(12/20)	1)春まちぽかぽかプロジェクトでの委員会報告ついて プログラム内容を検討。パワーポイントを活用し活動の取り組み紹介をすることを確認。 講師を検討:案としてNPO法人プウプ代表理事吉村氏 2)意見交換 3)フードドライブの実施:12月11日(土)・12日(日)午前10時～12時 寺井地区公民館(歳末助け合い入札展と同会場) ・寺井高校JRC部ボランティア参加
	第8回会合(1/13)	1)春まちぽかぽかプロジェクトでの委員会報告ついて内容確認 役割分担、グループワークの内容検討。 2)フードドライブ実績報告。
	第9回会合(2/15)	1)春まちぽかぽかプロジェクトでの委員会報告の内容最終確認。
	第10回会合(2/19)	＊春まちぽかぽかプロジェクト　「"誰かと""みんなと"つながるために私たちのできること！」実施　(オンライン＋会場参加型) アドバイザー:特定非営利活動法人プウプ　代表理事 吉村 久美子 氏 ・「助けたり・助けられたり」のおはなし 住民の方々や母子会、子ども食堂、市国際交流協会の助け合いの取り組みの紹介 ・個人ワーク「私たちができること」　参加:61名　(オンライン10名、会場51名) フードドライブの実施:2月19日(土)10:00～12:00 辰口福祉会館
	第11回会合(3/7)	1)春まちぽかぽかプロジェクトプログラム2と1年間の取り組みの振り返り。 2)第4次活動計画に向けての目指すことの確認。

第３次能美市地域福祉活動計画の指標　〔令和３年度　最終４年目〕

(R4.3.31現在)

◆ こころに寄り添い合う人づくり委員会

指標項目	第3次当初(H29実績)	目標値	H30	R元	R2	R3	算出根拠
地域における「ふれあい行事」の開催（回） ※「ふれあい行事」は地域の既存の行事に福祉の視点を取り入れ て行うもので地域福祉委員会の実績報告で把握します。	251	300	300	299	70	193	【目標値】H26からの4年間で85回増。平均予約9回、今後5年間で9×5=45回増と考え、251+45=296→300
・ボラフェス・ふれあい福祉交流会等の実施回数（回）			2	2	0	0	
・こころに寄り添える人づくり講座回数　(回)			3	2	2	2	
・地域福祉委員会におけるふれあい行事の実施回数（回）			295	295	68	191	
障がいのある方(その親等)の仲間作りと社会参加を目的とする交流の機会の開催数(単年度数)　(回)	27	30	25	34	27	32	【目標値】障がいを持つ子の母親グループ「きっともっと」が解散したが、別のつどいの可能性を探ることとし現状維持とする。 ※1(R3内訳)ゆるにこﾁｮﾝ(8回)・ふれあい福祉運動会(0回)・西任田(0回)、障がい者週間等の実施数（1回)・まるにこ親子の広場(9回)
・ぬくもりサロンの実施回数（回）			4	4	4	4	
・福耳ネットの実施回数（回）			12	10	10	10	
・ゆるにこﾁｮﾝ・ふれあい福祉運動会・西任田、障がい者週間等の実施数　(回)※1			9	20	13	18	
子育て支援に関する集いの場の実施回数(単年度数)　(回)	133	140	136	145	235	191	【目標値】親子サロン、絵本カフェの地域を会場に広めていくとして微増。 ※2(R3内訳)のみん広場(0回)、子育てネット(2回)、子ども食堂でのつどいの集い(2回)実施回数　(回)ジーヒルズ(1回)、irodori(20回)、三道山子(18回)、オアシスつるしん(48回)
・親子サロンと絵本カフェの実施回数　(回)	133	140	135	121	116	102	
・のみん広場、子育てネット、子ども食堂でのつどいの集い実施回数　(回)※2			1	24	119	89	
地域における福祉体験・共生理解の体験者の延べ人数　(人)	5,114	5,500	4,572	3,765	2,428	3,365	【目標値】現状維持
・学校での福祉体験の体験者の延べ人数　(人)			4,487	3,692	2,381	3,247	
・ジュニボラ施設体験者数述べ人数　(人)			85	73	47	118	

◆見守り・助け合い推進委員会

指標項目	第3次当初(H29実績)	目標値	H30	R元	R2	R3	算出根拠
各町地域福祉委員会の実施回数(単年度数)　(回)	390	390	688	632	464	493	【目標値】H29実質79地域福祉委員会平均9.08回開催。これを年12回開催にすると948回→950回
地域のいきいきサロン・地域カフェ・公民館開放等の合計実施回数(単年度数)　(回)	679	679	1,203	2,003	1,153	1,038	【目標値】H29実質79地域福祉委員会は平均15.4回実施を年20回(月2回弱)開催に(1580)
地域福祉委員会ヒント探し講座【入門編】修了者数(活動推進員登録者数)(累計数)　(人)	139	139	311	338	363	381	【目標値】10年間平均27人。今後5年間×で25人=125人増と考え、271+125=396→400
地域福祉委員会と連携をとる地域内の「生活支援の助け合いグループ」把握団体数(累計数)　(団体数)	7	12	8	12	15	16	【目標値】5年間で6団体増。今後5年間で7+5=12
団体名	①えんがわ、②末信町、③石子町、④九谷町、⑤西二口町、⑥松が岡クラブ、⑦東レOB支援隊		⑧能美子ども食堂ネットワーク	⑨三道山子ども食堂・⑩みんな食堂・⑪ほっとサロン・⑫市商工女性まちづくり研究会	⑬粟生リンクの和、⑭オアシスつるしん、⑮下ノ江ささえあい隊	⑯下開発	①認定NPO法人えんがわ、②末信町支えあい隊、③石子町お世話さん、④九谷町見守り隊、⑤西二口町ほほえみネット、⑥松が岡クラブ、⑦東レOB支援隊、⑧能美子ども食堂ネットワーク、⑨三道山子ども食堂、⑩みんな食堂、⑪NPO法人たすけ愛サロンほっと、⑫市商工会女性まちづくり研究会、⑬粟生リンクの和、⑭オアシスつるしん、⑮下ノ江ささえあい隊、⑯下開発つながりの会
ボランティア登録数(単年度数)（人）	3,385	3,385	3,953	3,834	3,576	3,359	【目標値】 市人口5万人の1割を目指す。 (H30.3.1現在50,132人)
ボランティア登録団体数(単年度数)　(団体数)	86	86	97	100	97	91	【目標値】 10年で14団体増。今後5年間で1/2と考え94+7=101→100

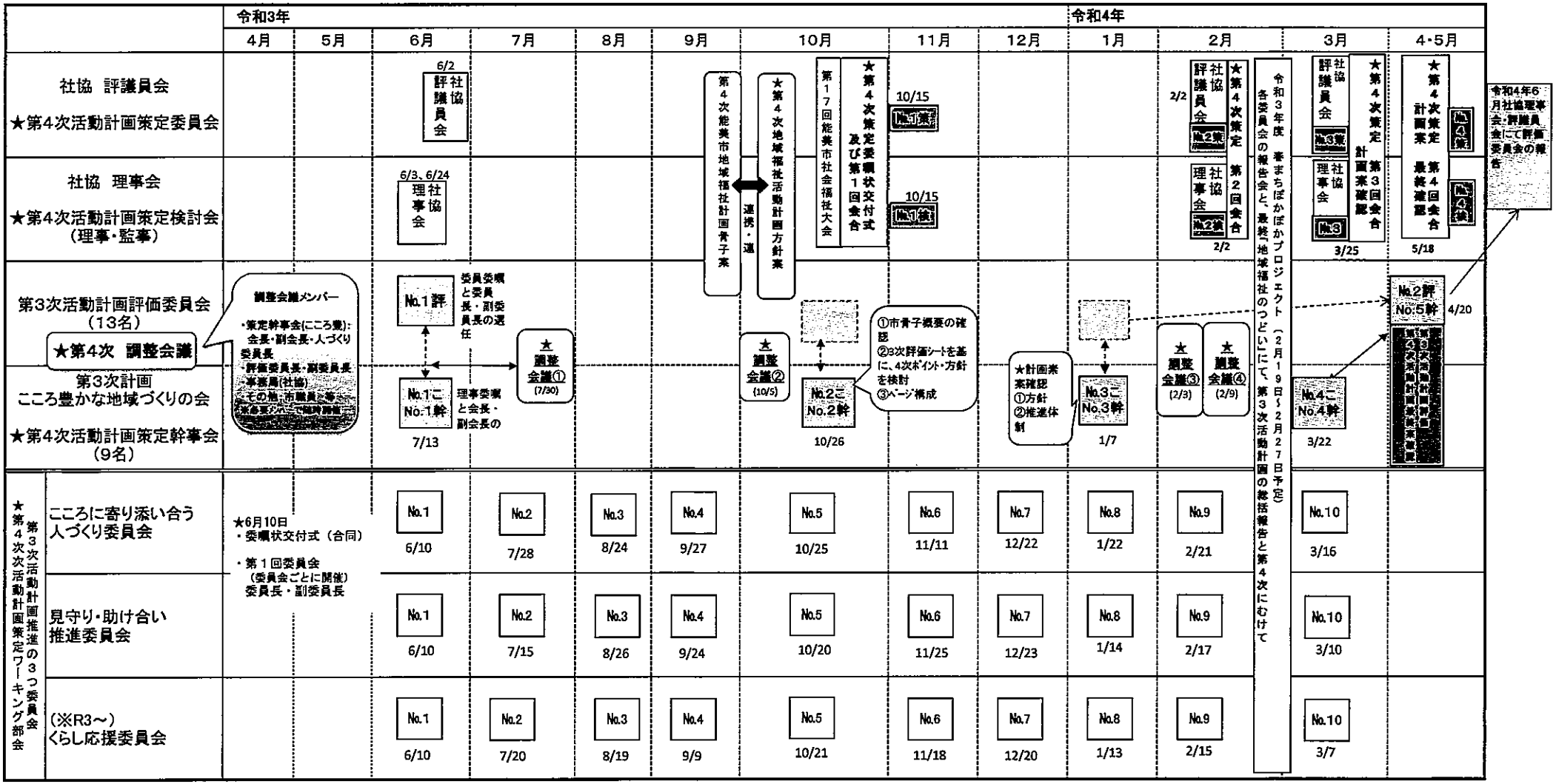
◆くらし応援委員会　(R3年度から開始)

指標項目	第3次当初(H29実績)	目標値	H30	R元	R2	R3	算出根拠
フードドライブ実施回数 市内実施(単年度数)（回）	—	—	—	—	参考 4	17	社協開催だけではなく、市内企業や団体での取り組みも含む（別紙資料参照）
フードドライブでつながった生活支援のネットワーク団体数(単年度数)（団体数）	—	—	—	—	参考 17	29	協議団体20（くらし応援委員会委員団体17、協力団体3) フードドライブ実施企業・団体 9
フードドライブで寄付を受けた食料の配付件数(単年度数)（件）	—	—	—	—	参考 180	217	くらしサポートセンターを通じて配付した件数を計上

◆春まちぽかぽかプロジェクト参加者数　(人)

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元年度	R2年度	R3年度
参加人数	927	1,243	1,370	1,261	1,721	1,473	1,828	0	185	871

◆社会福祉協議会の会員数　(単年度数)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元年度	R2年度	R3年度
個人会員	4,692	4,581	4,361	4,224	4,419	4,344	4,763	4,763	4,234
団体・企業含む	5,050	4,926	4,708	4,557	4,748	4,674	5,092	4,664	4,503

令和3年度　第3次能美市地域福祉活動計画4年目（最終とする）推進体制　及び　第4次活動計画策定の実績